

## News

「被災地内看護職との協働による避難所・仮設住宅・在宅における看護活動（長野班）」  
令和3年3月20日に実施した活動が 信濃毎日新聞 2021年3月26日（金）に掲載されました。

### テーマ：台風被災地区モデル防災探る—長野で日本災害看護学会講習会—

日本災害看護学会（東京）は、ワークショップ（参加型講習会）形式のセミナー「災害に強くなる知恵と技」を長野市の清泉女学院大学で開いた。

学生や市民ら約30人が参加。2019年度の台風19号で被災した同市長沼、豊野両地区および芹田地区をモデルに、各地の特性を踏まえた防災対策を考える体験をした。

参加者は5班に分かれ、それぞれ1地区について話し合った。DIG（Disaster、Imagination、Game）の手法を用いて、地図を用意し、各地の地図や鉄道や主要道路の境界に色を付けながら、災害時に留意が必要な点や望ましい住民の対応について意見を交わした。

長沼地区を担当した班では、住民の対応として、水害や地震などの災害別に避難先を確かめて「訓練をする必要がある」との見解が上がった。同大看護学部1年Aさんは、「地元の地形を確認することが災害時の避難などに必要だと実感した」と話した。

日本災害看護学会理事を務める小原真理子教授は「民間レベルで防災減災の力を高めていきたい」と述べていた。

出典：信濃毎日新聞 2021年3月26日（金）を引用し、一部修正追加した。